

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／門川裕子

同志社大学
学長

村田晃嗣



「京都」「私学」「キリスト教」。 3つの特徴に共通する多様性こそ グローバル化の必須条件

同

同志社大学の特徴は「京都」に位置する「キリスト教」「私学」であるという点。この3つに共通するのは多様性であり、それはグローバル化へ向けた必須条件だと考えています。

大学生の約4割が首都圏で学ぶなど、大学の首都集中が進むなか、その外側から国内外について考えることは非常に大切。特に多くのベンチャービジネスが育つ「京都」は、伝統と革新が融合した世界的な都市であり、ローカルな力をグローバルに生かすことが可能です。

また「私学」には創立者があり、本学の学生ならば誰もが新島襄について知っています。創立者と学生がアイデンティティで結びつくことのできる大学はそう多くはないでしょう。新島は近代

化に際して西洋の物質文明の背後にあるキリスト教を学び、「一国の良心」ともいべき人物を育てようとした。自分で考え、行動し、責任をとれる人。そうした社会の中核を支える健全な市民が育たない限り近代社会は成熟しないと考えたのです。これは今なお、日本の社会が抱える課題です。

そして「キリスト教」。日本の人口に占めるキリスト教徒の割合は約1%であり、日本社会におけるマイノリティであることも多様性を意識させることになるでしょう。グローバル化した社会において、政治的・経済的・文化的観点に加え、宗教的観点を含め重層的にものが見られることは本学の強みです。信仰を強いるものではありませんが、キリ

スト教の理解は、グローバル社会のパスポートであると言えます。

これら3つの特徴において本学は、首都圏の大学とも、近隣の国公立大学や私立大学とも異なる大学として存在するのです。と同時に、例えばキリスト教の大学による連携や、類似した産業構造をもつ都市との提携。あるいは関西の大学間の連携によって、関西全体の活性化を図りたいと考えます。

学内の整備も喫緊の課題です。14学部となった今、文系学部を中心とした今出川と、理系学部中心の京田辺キャンパスが有機的に連携し、総合大学としての強みを発揮せねばなりません。

国際色豊かな本学には、全国あるいは海外から実にさまざまな学生が集います。学力層も幅があり、志望理由も多彩ですが、大事なことは、自分の判断と責任で入学してきたということ。自分の進路選択に責任を負えない人間が、社会の中核を担う市民にはなりません。同志社大学は自由な大学ですが野放図な自由はありません。リベラルとは本来、自分と異なる意見に対してどれだけ寛容でいられるかということです。自分だけが正しく、意見を異にする者は間違っているという独善に陥ると、自由は急速にしぼんでしまいます。

【学長プロフィール】むらた・こうじ●1964年生まれ。同志社大学法学部卒業。神戸大学大学院法学研究科博士課程修了。98年神戸大学博士(政治学)。広島大学総合科学部助教授、同志社大学法学部助教授、同教授、同法学部長などを経て、2013年4月より現職。

【大学プロフィール】1875年同志社英学校として創立。神学部、文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、政策学部、文化情報学部、理工学部、生命医科学部、スポーツ健康科学部、心理学部、グローバル・コミュニケーション学部、グローバル地域文化学部の14学部。